



## 5周年を迎えて

Sottoにとって、本年度は5年目という節目の年です。2010年に開設されて、この5年の間には、本当にさまざまな出来事がありました。開設当初は10名でのスタートでしたが、いまでは60名以上の方がボランティアとして働いてくださっています。また、メール相談や居場所づくりなどの新規事業も展開し、より相談者が関わりやすい支援体制を整えることにも力を注ぐことができるようになってきました。自死に関する対人支援として、私たちの活動は、まだまだこれからという思いでいます。それでも、5年という期間をたくさんの方々に支えられ、応援していただきながら地道に歩めてきたことには、感慨深いものがあります。本年度には、そうした想いを込めた記念事業として、5周年の記念冊子の発刊と5周年記念のシンポジウムを開催することにしています。

記念冊子では、〈これまでの歩み〉〈これからの支援とは〉〈ボランティアの声〉〈Sottoの大切にしている姿勢〉などを記事にする予定です。改めて、Sottoのあり方を深く見つめ直す機会にすると共に、一人でも多くの方に私たちが大切にしている想いを伝える資料となるように、編集したいと思います。

シンポジウムでは、「自死・自殺を本気で考える」というテーマのもと、『自殺』の著者である末井昭氏（編集者、作家）、『生きさせろ！難民化する若者たち』の著者であり反貧困ネットワークの副代表である雨宮処凛氏（作家、社会運動家）をお招きして、自死遺族弁護団事務局長でSottoの理事でもある生越照幸氏にコーディネートしていただきます。自死に関する情報を発信していくことについて、その意義やより良いあり方を模索する場になることを期待しています。

これらの記念事業を良い機会として、今後も、自死の苦悩を抱えた方にとって心から安心できる居場所であることをめざし、つねに私たち自身のあり方を見つめて、より良いSottoとなるように励みたいと思います。どうぞ、より一層のご支援をよろしくお願いいたします。

(代表 竹本了悟)

## 被災地ノート ③⑩

# 3年半も経つのに

今年8月、あるモニュメントが閑上地区に完成した。

白い石柱のようなモニュメントは、頂上が二股に分かれており、その高さは、この地域に到達した津波の高さを表しているのだそうだ。

そして、石柱の足元には、たくさん名前が彫られた石碑が並んでいる。

すべて震災で亡くなった方のお名前である。

訪問した仮設住宅でも、そのモニュメントを見に行ったという女性がいらした。

閑上にお住まいだったその方は、震災後、閑上に行く機会は3、4度ほどしかなく、自分から進んで近寄りたと思う場所ではなかったそうだ。しかし、モニュメントができたことをきっかけに、閑上に行く気になったのだという。

どうしてなのか訊ねたところ、石碑には娘さんのお名前が刻まれており、その娘さんの名前を確認するために、閑上に行く気になったというのだ。

「娘の名前を見ると、涙を堪えられなくてね…」

モニュメントの前でひとしきり泣くと、今度は女性の目に娘さん以外の方々のお名前が入ってきたのだという。

「たくさんいるんだね。娘と同じ思いをした人が。」

「あれから、なにもかも変わってしまったね」という言葉が重く響いた。

そして女性は、ご自身のお気持ちを話されたあと、「3年半も経つのに、こんな話を聞いてもらって、申し訳ない。悲しいなんて言ったらいけないんだろうけど」とおっしゃるのだ。

3年半が経ったからと言って、どうして悲しんではいけないのだろうか。

悲しい気持ちを押し込めようとされている女性の姿を見て、この方の悲しい気持ちを悲しい気持ちのまま大切にしたいと思った。

(ボランティア2期生 A.C.)

# 『ボスだけを見る欧米人 みんなの顔まで見る日本人』

増田貴彦 著(講談社+アルファ新書)



ある実験。欧米人と日本人に複数の人物が並んでいる画像を見せ、その中心にいる人物の表情を判断してもらった。欧米人は画像のなかでもっとも目立っているボスらしき人物にピンポイントで焦点を当てたのに対し、日本人は背景の人たちの顔色までうかがって、全体の雰囲気を考えながらボスの表情を判断する傾向にあった。

近年、これまで万国共通と考えられてきた人間の「物事の見え方」が、地域・文化によって全く異なることが「文化心理学」の進展によって明らかになってきている。本書はその最先端の知見を豊富な具体例を用いてわかりやすく伝えてくれていて、とても面白い。

先の事例はその一端であるが、やはり東洋と西洋との認知の違いは際立っている。京都の町並みを描いた「洛中洛外図屏風」のように画面全体にあらゆる建物を描きこむ鳥瞰図を発達させた日本の絵画。一方、遠近法を用いて固定したある一人の人物の視点から奥行きのある風景を描く西洋絵画。複数の視点が混在する日本絵画には、したがって影が描かれない、という。人にフォーカスする西洋と、周囲を意識する日本。同じ「現実」を見てはいても、「見ている世界」が全く違うのである。

ではその違いは何に起因するのか。これも面白い実験。例えば赤ちゃんにクルマのおもちゃを与えた時に、欧米では「赤いブーブーだね」「タイヤが4つ付いてるね」などおもちゃそのものの説明をするのに対し、日本人の母親の多くは「ブーブーをこっちにちょうだいね」「こっちのブーブーと違うね」などおもちゃを媒介に母親と子供と一緒に遊べるように促す声かけを行うという。周囲との関係を大切にする日本の子育てと自分の意思を尊重する欧米の教育。その違いが認知の差異となって表れているという。

もちろんどちらの文化が優れているか、ということが問題なのではない。大切なことは、「人はみな同じ現実を見ているとは限らない」ということだろう。

私達は、自らの意思でこころを働かせることによって、眼に映るあまたの物理的情報から、私たちが重要であると思うものを取捨選択し、注意を向け、情報を選びとっている。(44頁)

ひるがえって電話相談。相手の気持ちを分かった気になりがちであるが、「人の心は多様である」という事実を肝に銘じたい。(N.S)

## 今月のことば

思い出の重みって、振り返る時間が多い少ないではないのかもしれない。

(よしもとばなな『すぐそのたからもの』文化出版局)

## 活動報告

- 9月期電話相談件数…187件（無言26件、よりそいホットライン担当59件を含む）
- 電話相談委員会  
グループ研修 9月18日（木）11名
- 9月期メール相談件数…受信件数129件送信件数82件
- メール相談委員会  
委員会会議 9月2日（火）6名、8日（月）4名  
グループ研修 9月16日（火）4名
- グリーフサポート委員会  
委員会会議 9月11日（木）8名
- 広報発信委員会  
委員会会議 9月29日（月）5名
- ファンドレイジング委員会  
委員会会議 9月4日（木）3名
- 居場所づくり委員会  
委員会会議 9月29日（木）4名



## 寄付ご協力一覧（敬称略・順不同） 2014年9月1日～30日 受付分

ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派  
株式会社エクザム  
葛野洋明  
庄司豊明  
菊井誠  
兼子千雅子  
稲田英真

宇多光誠  
樫本純  
下川弘暎  
林智康  
常満寺  
藤本弘信  
鎌倉義雄

永江武雄  
光国寺和光仏教婦人会  
匿名  
匿名  
岡崎誠徳  
高木愛郁



### Sotto コメント

散歩に出かけると、どんぐりが沢山落ちています。『ぐりとぐら』という絵本の「どんぐりをかごいっぱいひろったらお砂糖をたっぷり入れてにようね」というセリフを思い出して、作ってみようとしてレシピを調べると、アク抜きに5時間以上かかるのとこと…断念しました。ぐりとぐら、すごいです。（N.Y.）

### 発行 2014年10月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局  
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92  
TEL 075-365-1600  
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>  
E-mail [so-dan@kyoto-jsc.jp](mailto:so-dan@kyoto-jsc.jp)